



第 141 号

発 行 者

東筑摩塩尻教育会

編 集 者

会誌会報委員会

「幸せ」について

東筑摩塩尻教育会長 大池 昌弘



十年ほど前になります。現在も続いているNHKエテレの番組「一〇〇分de名著」が、正月に「一〇〇分de幸福論」を放送するというので、興味を感じて見ることにしました。

この番組は、起承転結となるテーマを設定して、一冊の名著を読み解いていくスタイルですが、「幸福論」では、四人の各界の専門家が、それぞれの分野での「名著」をもとに、「人間の幸福とは何か？」を考察する、という流れでした。

四人の顔ぶれもユニークで、作家の島田雅彦が井原西鶴の『好色一代男・女』、経済学者の浜矩子がアダム・スミスの『国富論』、哲学者の西研がヘーゲルの『精神現象学』、心理学者の鈴木晶がフロイトの『精神分析入門』から、それぞれ幸せについて論ずる、という構成です。いったいどのような結論が出るのか、少しわくわくしながら、正月の夜にテレビに向き合いました。

見終わった後、少し呆然としました。肩透かしをくらったような感じでした。私がその時にとらえた結論が、「幸せとは、誰かの幸せを願うことである」だったからです。四人の専門家それぞれの結論が、まさか「幸せは自分の内にあるものではなく、自分の外にあるものだ」となるとは思いませんでしたので、あれ?となっていました。

しばらくは、そんなことも忘れて忙しく日々を送っていたのですが、急に「本当にそんな結論だったのか?」が気になりはじめ、NHK出版の番組ムックを買いました。改めて四人が著した文章を読んでみて、やはり結論はおよそその通りであったことが分かりました。表紙には一言ずつ「幸せとは、断念ののちの悟りである」(島田雅彦)、「幸せとは、人の痛みがわかることである」(浜矩子)、「幸せとは、ほんとうを確かめ合い、自分の生を肯定することである」(西研)、「幸せとは、愛する人が幸せでいることである」(鈴木晶)と、表明されていました。どうやら私は、鈴木晶の言に最も感応したようでしたが、四人とも結論の方向は同じであるような気がしました。改めて考えてみると、教師である私たちの「幸せ」とは、確かにこのようなものである、と、みなさんも思わざるを得ないのではないのでしょうか。

東筑摩塩尻教育会創立一四〇周年を迎えた令和六年、青柳直良先生が十二年、それ以上の歳月をかけて編まれた記念誌が会員、準会員のみなさんに手渡されました。そこでは手塚縫蔵の人の思想が、生き生きと活写されています。「塩筑教育の『ものぐさ精神』とは?」と、問われたとき、「磨けば光ることさ」と喝破した手塚の人の思想は、ゆるぎない人格主義教育への信念に源流を持ち、その核心は「子どもの前に立つことは神の前に立つことに等しい」との、ゆるぎない子

どもへの愛であった、と、私なりの理解をさせていただきました。ここで、先に長々と述べたことがつながるように思います。即ち、「教師である私の幸せとは、目の前にいる子どもたちが幸せでいることである」と。休み時間の他愛のない話でも嬉しそうにほほ笑むとき、顔を真っ赤にして「わかった!」と叫ぶとき、じっくり取り組んだ作品を認めてもらって、鳩のように胸を膨らませる子どもを見たときに、私たち教師はたとえようのない「よろこび」を感じます。その時、「私は私であっていい」と、自身が感じられることが、まさに「幸せ」そのものと言えるのではないのでしょうか。私たちは、微力ではあっても子どもたちの幸せを願うことにより、幸せにしてみらっている存在なのではないか、と思うのです。

手塚のころ、教育会の使命は「研究と修養」でした。現代の私たちは、「研修」により職能向上を図っていますが、では「修養」はどうでしょうか。私たちが子どもの前に立つとき、その幸せを願うとき、私たちはそれだけの人間である、と、胸を張って言えるでしょうか。修養により教師の人格を高めるという、教育会のある意味に改めて思いをいたし、「自ら求め、ともに磨き合う塩筑教育会」のテーマのもと、様々な教育会の場につどい、大きなものぐさ精神をもって互いに磨き合う。節目の年、私たちの来し方行く末を想いながら、東筑摩塩尻教育会の諸事業で、お会いしましょう。

特 集

令和六年度

東筑摩塩尻教育会総集会

令和六年五月十八日(土) 塩尻市レザンホール

会 員 発 表

美術展委員会

「子どもが描きたいと
思うとき」

北村 知香

令和六年五月十八日(土) 塩尻市レザンホールにて、公益社団法人東筑摩塩尻教育会総集会在開催されました。今年度は東筑摩塩尻教育会一四〇周年記念総集会として、「塩筑教育会」の「これまで」を見つめ、「これから」を想う」をテーマに開催されました。開会音楽では音楽教育研究会の発表や会員の信濃の国の合唱が行われました。

今年度の会員発表は美術展委員会より「子どもが描きたいと思うとき」と題して片丘小学校の北村知香先生に美術展委員会の取り組みや北村先生の実践を発表していただきました。

講演会では、平成十二年度塩筑教育会長の青柳直良先生をお迎えし「東筑摩塩尻教育会と物ぐさ太郎像」と題してご講演いただきました。



ことについてお話しさせていただきます。それでは、初めに美術展委員会の活動についてお話しさせていただきます。

美術展委員会の主な活動は二つあります。一つ目は、今を生きる子どもたちの絵展、長野県児童生徒美術展地区審査への協力、二つ目は、郡巡回展の運営です。

地区審査ですが、各校から図工担当の先生方にも協力していただき、美術教育

昨年度、今年度 美術展委員会委員長を務めさせていただいておられます。片丘小学校の北村知香です。よろしく願います。

本日は、美術展委員会の活動と図工・美術の学習に生かせよう

研究会と一緒に行わせていただいています。

審査の様子です。先生方、熱心に作品を選んでくださっています(資料1)。

各校から選ばれた作品が集まってくるので、他校での取り組みのよさ、題材の面白さを知ることができ、わたしたちの学びの場にもなっています。図工に苦手意識のある先生方いらつしやいましたら、審査に参加して一緒に学んでいただけたらうれしいです。また、審査に協力していただいた先生方がここで学んだことを各校で広めていただけるとありがたいです。

審査の前には、塩尻市教育センターにいらつしやる村上啓先生からお話をいただいています。村上先生からは、「一年生のあさが、三年生のひまわり、四年生のヘチマのように、ずっと変わらない題材を変えていく必要性和その変わらない題材を教科書題材に変えていこう」というお話をしていただきました(資料2)。

六年前になるとありますが、美術教育研究会の発表を川船先生がされたときに、「今までの絵画題材からの脱却」という

ことで、「新しい題材や表現の作品をどんどん発信していきたいという願いのもと、審査の方法や入選作品の傾向を思い切つて変えていくことにした」ということをお話されていました。その時から、毎年、新しい題材、表現の発信を呼びかけてきて、審査に集まってくる作品も本当に変わったと感じています。わたしたちの呼びかけに応えていただいていたことがたかつたです。

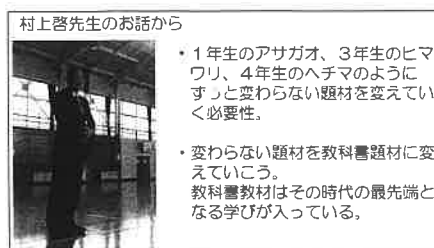
これは昨年度審査に集まってきた小学校の作品です。教科書題材がとて多くなりました。特に、二年生の作品が充実していたと記憶しています。今年度は、教科書が変わりましたので、様々な題材にチャレンジしていただいて新しい表現が増えることに期待しています(資料3)。

こちらは、中学生の作品です。中学生になるとここまで描けるようになるんですね。小学校での経験をもとに、専門の先生によって力を伸ばしてもらっているのがわかります(資料4)。

村上先生が、「教科書教材はその時代の最先端となる学びだ。」とおっしゃっていました。ぜひ積極的に扱っていただ



資料 1



資料 2



資料 3

きたいなと思います。

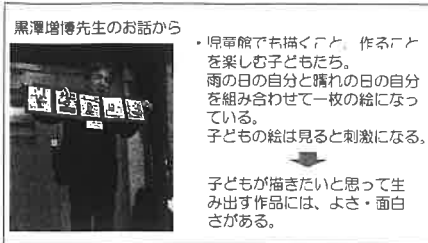
二つ目の活動は、郡巡回展の運営です。こちらにも各校の図工担当の先生方に協力していただいて進めています。各校の作品を小学校三コース、中学校二コースにわけて、全部の学校の作品が見てもらえるようにしています。十一月頃から一週間ずつそれぞれの学校で作品を展示してもらっていることと思います。子どもたちも鑑賞していただくなど、作品からの学びを子どもたちに還元していただけると幸いです。

巡回展の準備では、各校でスムーズに展示してもらえように、連を作り、作品を傷めないように画鋲をとめるための耳をつけています。これが結構大変な作業なのですが、多くの先生方の協力により短時間でできていることに感謝しています。

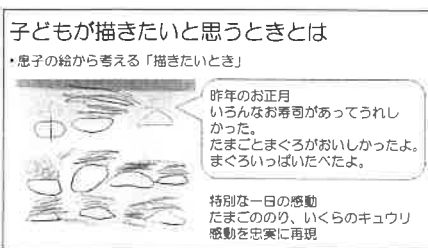
連づくりを終えると、巡回展の作品を見合う「作品研究会」を行っています。各中学校区ごとにグループになって作品を見合い、感じたことを話題にしていきたいです。先ほどの審査のところでもお話しした「題材」について、小学校と中学校の



資料4



資料5



資料6

先生が情報交換したり、九年間の子どもを描く力の成長の様子を作品から感じたりすることができ、とても有意義な時間となっております。こちらにもよい学びの場だと思えますので、図工・美術専門外の先生に参加していただくと、私たちにも新たな視点を与えてもらえると思います。

作品研究会には、講師として片丘児童館長の黒澤増博先生に参加していただいています。黒澤先生からは、児童館での子どもたちの創作活動についてお話しいただきました（資料5）。児童館は、学習とは離れた場所になりますが、そこでも子どもたちは描くことやつくることを楽しんでいきます。学習から離れていることで、子どもたちの作品はより自由度の高いものになっていると感じられます。写真は、雨の日の自分と晴れの日の自分を組み合わせる一枚の絵にしたものです。こういう作品が日々の学習の中にも出てきてくれるといいと思います。子どもたちの絵は見る刺激になると黒澤先生はおっしゃっていました。子どもが描きたい、つくりたいと思っ

は、よき、おもしろさがあるということ。それは、子どもたちが「描きたい」と思うときとはどんなときなのでしょう。

私には、来年一年生になる息子がいます。しゃべり始めるのも遅くて、とてもマイペースな子なのですが、最近は絵を描くことにも親しんでいます。そんな息子の絵から、子どもの「描きたいとき」を考えてみたいと思います。

みなさん、何の絵かわかりますか？これは昨年のお正月に描いた「おすし」の絵です。なんで描いたのか聞くと、こんなふうに答えてくれました。まぐろをいっぱい食べたことが伝わりますよね。私が注目したのは「たまご」と「いくら」です。たまごにはのり、いくらにはきゅうりが描かれているのがわかりますか？自分が食べたのはこういうおすしというこの再現が彼の感動の表れなのかなと思いました。お正月という特別な一日への感動がこの絵のもとにあると考えられます（資料6）。

次は何かわかりますか？これは、はたらくるまの絵です。息子は工事現場の車と農作業の車が大好きです。最近では代かきのトラクターと田植え機を見に行き、これは大喜びでした。メーカーにもうさくて、これはコマツ、これは日立のショベルカー、トラクターのオレンジはクボタ、青はイセキ、赤はヤンマーと、ちゃんと描き分けています。写真にあるのは赤なのでヤンマーのトラクターです。小林旭さんの「赤いトラクター」という歌を保育園で覚えてきて、おじいちゃんたちに喜ばれています。自分の好きなものに、特におもちゃで持っているものを実際に見た感動を表していると思われる。

一昔前は、見たことをおもちゃを動かして再現していたのですが、絵で表すようにもなってきました。好きなものはよく見ているのでイメージしやすいのだと思います。好きなものも子どもたちの描きたい気持ちにつながっていきます。

次は、絵本でご存知の「ぐりとぐら」です。絵は私が描いて息子が色を塗ったものです。このころ二月だったのですが、保育園でぐりとぐらの劇をやっていたんですね。参観日では「ぐりとぐらのいちねんかん」で年中さんの思い出を発表してくれました。うちの息子は、畑で育てたそうめんかぼちゃの役でした。そうめんかぼちゃって知っていますか？見た目は黄色くて細長いつるつるしたメロンみたいな感じですが、ゆでると果肉がそうめんみたいになるんです。給食にも出してもらってとてもうれしかったそうです。劇が楽しくて、ぐりとぐらの世界に浸って過ごしていたところへ雪が降ったわけです。昨年度はたくさん降り降りましたね。後から雪をいっぱい描いて降らせていました。生活の中で中心となっていたこと、その中で起きた心に残る出来事は、描いても伝えたいことだったんだなと思いました。

これは室外機の絵です。息子は換気扇や扇風機などの回るものも好きです。小さい頃はそれらの絵もたくさん描かれました。今は自分でも描くようになって、だんだん上手になっています。お散歩に行ったり、出かけたりにいろいろな室外機を見ているので、その変化にはとても敏感です。朝起きて雪が積もっていたときは、雪を描き足していました。さびた茶色い室外機を見たときは「なんでさびるんだろう。」と言いながら描いていま

した。大きな縦型の室外機があることに気づいたときには、それを一生懸命描いていました。好きなものの変化や新たな発見は、伝えたい思いが強いのだと思いました。

子どもが「描きたい」と思うときには、強い感動や心に残る出来事を経験したり、伝えたい思いがあったりするときののだと感じています。では、その「描きたい」を「描こう」にするためにはどうしたらよいのか、次の段階になっていくかと思えます（資料7）。

今年度は久しぶりに学級担任に戻りまして、一年生を担当していますので、一年生の絵から見ていきたいと思います。どこの学校も実践されているかと思いますが、何を描いたかわかりますか？ 久しぶりに図工を教えてみて、子どもの絵っておもしろいかなと思わせてもらった題材となりました。これは全部「おひさま」の絵です。何のおひさまもタイトルを出していただきますので見てみてください。

「おひさま」というと、絶対的なイメージと形があるので、そこを崩していくのが難しいと思うのです。その中で、い



資料7



資料8



資料9

ろいろな「おひさま」が出てきたことがとてもおもしろかったです。

この題材は、思いついたものを楽しく描く活動です。描く前には、子どもたちにも自分の思うおひさまをたくさん話してもらいました。動物を話す子が多かったのですが、意外とライオンのおひさまはなかったです。でも、聞いていて「おもしろい」と感じる発言は多かったですし、子どもたちも、友だちの発言を楽しそうに聞いていて、とてもいいひと時でした。こんなふうにイメージを言葉にする活動があることで描きたいものが決まっていき、「描こう」という気持ちへつながっていくのではないかと感じています。今回、描き始められない子どもがいなかったの、何を描いたらいいか迷う子どもへの手立てにもなると思います。対話などの言葉にする活動でイメージをはっきりさせていくことは、「描こう」という気持ちにつながっていくと思いますので、図工でも大事にしたいなと思います（資料8）。

最後になりますが、これら二つの絵をご覧ください。片丘小学校は昨年度一五〇周年を迎えました。そこで、片丘在住

の画家、上條喜美子先生から学校に寄贈していただいた絵です。児童昇降口を入って見上げたところにあり、子どもたちも毎日目にしています。上條喜美子先生ですが、画家として歩むことを決めたのは、小学校のときの先生の「あなたの絵はいいね。あなたの選ぶ色はいいね。」という言葉が、きつかけだったそうです。わたしたちのかける言葉は、ときに子どもたちの人生に大きな影響を与えることがあります。子どもたちのよさをたくさん見つけてあげてください。図工の時間が、先生も子どももお互いに楽しい時間になることを願っています（資料9）。

会員の感想

「はらばへ」

横内 哲也

青柳先生のお話をお聞きして、教師としてのありかたを見つめ直す、大切な機会をいただきました。

塩筑教育会九十周年に建立された物ぐさ太郎ブロンズ像。頭から肩、背中、組まれた足へと続く伸びやかな曲線は、伸び伸びとしなやかに表現された、子どもが持つ可能性の広がり象徴であること



を教えてくださいました。

教師も子どもも、「はらばへ」ば、そこに自由でのびやかな可能性が生まれる。これは、殊更物ぐさ太郎を愛した手塚縫蔵先生ら、塩筑の諸先輩方の精神にもつながるものだと思います。「自由奔放であれ。怠け心の中から、未来への意思と活力を生み出せるような教師であるべき」と。塩筑会館を訪れ、物ぐさ太郎像を仰ぎ見るたびに、いつも胸に刻みたいと思います。（塩尻西小学校）

東筑摩塩尻教育会と物ぐさ太郎像

田辺 圭一

私の学校には「真・善・美」という大きな扁額が飾られています。「真・善・美」とは、古代ギリシャ哲学で提案された、人生の究極の目標とされる三つの価値観です。真とは学問、事実に即した正しい

認識、善とは、道徳的に正しい行為、美とは芸術の追求目標で、感覚的に心地よいものや、芸術的な価値を持つものとして定義されています。我々教職員も生徒も、毎日目にして、自分自身の在り方や生き方を振り返る指標となっています。東筑摩塩尻教育会一四〇周年の記念講演として、青柳直良先生の「物ぐさ太郎像」のお話をお聴きし、自分自身を振り返る良い機会となりました。私自身、塩筑教育会にお世話になりました。多くの方に出会い、支えられ育ていただきました。今回、長年に渡り脈々と受け継がれる魂（考え方や指標）をお聴きし、目の前の子どもたちの健やかな成長のために我々教職員同士が語り合い、共に学ぶ合う時間や仲間の大切さを強く感じました。「今日もまた頑張ろう」と生徒達の前に立ちたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。（塩尻中学校）

総集会 講演会を聞いて

塚原まゆみ

今回青柳先生より、塩筑教育の礎となつてゐるものぐさ太郎像について講演いただき、この像の制作にあたって諸先輩の先生方の思いが込められていたことを初めて知りました。ものぐさ太郎という名前からなぜこの人物が象徴となつてゐるのだろうと不思議に思い、講演後『東筑摩塩尻教育会百四十周年の軌跡』を読んでみました。そしてものぐさ太郎の人となり分かりました。

私は塩筑出身です。教員になり、各地区の教育に触れ、再び塩筑に戻ってきました。それぞれの地区で大切にしてきた

ことは、実際に肌で感じとってきましたが、今回のご講演で、塩筑教育が大事にしてきたことをはっきりと言葉として理解できた気がしました。

今までの教員生活の中で、固く考え過ぎたり、悩みすぎたりすることがありました。これからは、ものぐさ太郎のように、時には空を見上げ、おおらかな心を持っていくことを大事にしていきたいと思っています。

貴重なご講演ありがとうございました。（筑北小学校）

令和六年度

塩筑教育会組織

役員

会長（代表理事） 大池 昌弘（山形小）
副会長 細山 和寿（洗馬小）
理事 清沢 剛（事務局長）
三溝 裕子

監事

常任委員長 小坂 幸恵（書記）
副委員長 藤松 隆雄（聖南中）
常任委員 赤津 勝広
名取 充（塩尻東小）
富田 章（両小野中）
伊藤 尊夫（麻績小）
大野 征二（塩尻西小）
召田 和美（片丘小）
赤羽 利樹（生坂小）
佐倉 俊（塩尻中）
倉科 高志（筑北中）
横内 哲也（塩尻西小）

総会

議長 倉科 高志（筑北中）
副議長 横内 哲也（塩尻西小）

本年度事業計画

一 各種研究委員会の推進について

1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩尻教育会の目的である「会員相互の研鑽により、職能向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点を踏まえて進めていく。

(1) 研究や実践、並びにそれらの情報収集・情報交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。

(2) 塩筑教育の課題を解決するため、できる限り会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。

(3) 塩筑教育の発展を期するため、会員やその他の教職員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をする。

2 研究主題及び委員名

（◎世話係 ○委員長）

課題追究部

教育課題検討ア（塩尻Ⅰ・中央）

不登校・不適応児童・生徒への校内体制づくりと支援のあり方

◎黒田敏樹（朝日小）○中澤住訓（朝日小）

小松優子（広陵中）窪田智子（桔梗小）

大内順平（広丘小）白田岳大（丘中）

湯本 敦（片丘小）佐藤みち子（吉田小）

宮澤史生（山形小）

教育課題検討ウ（塩尻Ⅱ）

（三）スクール第二期を見据えた「二」端末の活用について

◎細山和寿（洗馬小）○西原正裕（洗馬小）

岡田祐貴（塩尻西部中）橘 幸恵（宗賀小）

伊藤龍生（塩尻西小）奥原征彦（塩尻東小）

笹平さやか（塩尻中）小野拓哉（櫛川小中）

元田武久（両小野中）

教育課題検討（北部）

北部の子どもたちの自立に向けての支援のあり方と教務主任としてのマネジメントのあり方

◎伊藤尊夫（麻績小）○西沢克也（麻績小）

前山夕貴（生坂中）清野寛代（生坂小）

塚原まゆみ（筑北小）杉山勝美（聖南中）

倉科高志（筑北中）

作品展運営部

書道展委員会

児童・生徒の書写力、鑑賞力を高め、指導者の資質向上を図るための県展審査、巡回書道展の企画・運営

◎吉越秀之（桔梗小）○今井洋子（桔梗小）

谷口奈美子（吉田小）古川真美（広陵中）

青木健太郎（筑北中）

科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童・生徒の育成

◎米窪治紀（宗賀小）○朝日奈佐（塩尻西部中）

上條隆久（桔梗小）山岸健司（朝日小）

大武宗胤（吉田小）

美術展委員会

各校の児童生徒の作品研究を通して児童

生徒の表現に対する見方の幅を広げる。
巡回展を通して、各校の取り組み、児童生徒の作品の良さを各校に広め、日々の指導にいかせるようにする。

◎召田和美(片丘小) ○北村知香(片丘小)
町田恵美(洗馬小) 原由紀子(生坂小)
上條達矢(丘中)

読書感想文委員会
今後の指導にいかすことと、読書感想文の評価について研修する。

◎大野征二(塩尻西小) ○才田理恵(聖南中)
奈須芳永(宗賀小) 北原綾乃(山形小)
太田綾子(塩尻西小) 山田雄哉(両小野中)

事業部

会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌・会報の発行

◎名取 充(塩尻東小) ○島田美香(塩尻東小)
村田綾香(広丘小) 岩淵優太(山形小)
伊藤未波(麻績小) 傳田貴彦(広陵中)
笹川美佐子(丘中) 倉科 黎(塩尻中)

情報ネット委員会

教育会の活動を広く紹介する。

◎赤羽利樹(生坂小) ○鈴木百合恵(広丘小)
森村 忍(榑川小中) 竹内良康(筑北小)

資料室委員会

資料室委員会のあり方について考える。
浅岡真太(生坂中)

三 助成事業

教科等研究会

国 語

◎大野征二 ○中村知浩
・自主研修の日の企画運営
・県国語学会夏期研修会の実施

・県国語研究協議会への参加
・授業研究会(松本と共催)の実施
・学会誌「信州国語教育」、「会報」の発行協力

社 会

◎小坂寿樹 ○中野直輝
・夏季研修会、講演会、自主研修の日の企画運営
・研究推進、実証授業(洗馬小・広陵中)
・信州社会科学研究会更埴大会への参加協力

算数・数学

◎藤松隆雄 ○宮川幸浩
・県算数数学教育研究大会への参加
・中信ブロック大会塩筑大会の運営
・県研修会への参加(夏、冬)

理 科

◎小松 猛 ○松村健太郎
・信州理研諏訪大会への参加
・理科実験講習会の実施
・自主研修の日(実験観察講習会)の企画運営
・ホームページ作成

音 楽

◎細山和寿 ○田中多美恵
・東筑摩塩筑教育会総集会での合唱発表
・自主研修の日(三味線に親しむ)の企画運営

図工・美術

◎高坂由美子 ○上條達矢
・「児童生徒美術展」「今を生きる子どもの絵展」の審査
・県美術教育研究会南信ブロック大会へ参加
・冊子「信濃教育」挿絵の協力
・冊子「県美術教育研究会会報」寄稿

体 育

◎名取 充 ○山田拓磨
・郡授業研究会、定例学習会、県学校体育研究大会、夏季研修会への参加
・自主研修の日の企画運営
・県教育課程研究協議会への協力

技術・家庭科

◎富田 章 ○橋場智之
・自主研修の日の企画運営
・県技術家庭科教育研究会への参加
・助成金の活用についての検討

英 語

◎白井伸明 ○重國敬子
・自主研修の日(情報交換および講演会)の企画運営
・定例会での研修の企画運営

道 徳

◎伊藤尊夫 ○井口敦正
・県道徳学会東筑摩塩尻研究大会の研究及び運営の推進
・自主研修の日(事例検討および講演会)の企画運営

特別活動

◎吉越秀之 ○柳澤ふゆ子
・自主研修の日(構成的グループエンカウンターについて)の企画運営

哲 学

◎竹下俊明 ○小澤英明
・自主研修の日(松本との合同実施)の企画運営

書写書道 ※休会

学 校 園

◎宮崎 聡 ○田中 亮
・自主研修の日(農家や加工工場、林業センターなどの見学や体験活動)の企画運営
・学校園や地域の農作物などに関わる教

保 健

◎赤羽利樹 ○田上早矢香
・自主研修の日(色育について)の企画運営
・保健教育委員会と保健主事部会との合同研修会の企画運営

カウンセリング ※休会

情報教育

◎米窪治紀 ○小松 誠
・情報教育に関する研究と向上発展
・自主研修の日の企画運営

総合・生活科

◎召田和美 ○塩川一砂子
・自主研修の日の企画運営
・県教育課程研究協議会への参加
・冊子「ふるさと大地」送付
・発達障がい支援

◎黒沢幸喜 ○近藤容子
・事例検討会、教材研究
・自主研修の日(講義、意見交換)の企画運営

編集後記

先生方の活動や思いについて寄せていただき、共有し研修を深められるよう願って編集してまいります。
お忙しい中ご寄稿くださいました皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

